

2026年3月期 決算説明資料 I 部

2026年3月期 決算説明

－決算報告・見通し・トピックス－

2026年3月期 決算説明資料 I 部の動画は
当社YouTubeチャンネルに掲載しております。

動画URL : <https://youtu.be/D4fjW4Hk9Ro>



1. 2026年3月期 決算報告
2. 2027年3月期 通期見通し
3. トピックス



日本プラスト株式会社

1. 2026年3月期 決算報告

2. 2027年3月期 通期見通し

3. トピックス



日本プラスト株式会社

(1) 概要



(単位：百万円)

	2025年3月期		2026年3月期		対前年比	
					増減	伸率
売上高	120,591	100.0%	114,861	100.0%	△ 5,730	△ 4.8 %
売上原価	108,325	89.8%	103,540	90.1%	△ 4,785	△ 4.4 %
売上総利益	12,265	10.2%	11,320	9.9%	△ 945	△ 7.7 %
販売費及び一般管理費	9,493	7.9%	8,672	7.5%	△ 820	△ 8.6 %
営業利益	2,772	2.3%	2,647	2.3%	△ 124	△ 4.5 %
経常利益	2,006	1.7%	2,499	2.2%	492	24.5 %
親会社株主に帰属する 当期純利益	56	0.0%	2,012	1.8%	1,956	—
1株当たり当期純利益	2.97円		106.22円		—	—
1株当たり配当金	15.00円		30.00円		—	—
設備投資額	4,142		3,746		△ 396	△ 9.6 %
減価償却費	4,863		4,476		△ 386	△ 7.9 %
US \$ 換算レ - ト	注1)	152.27円	注2)	149.78円	△ 2.49円	—

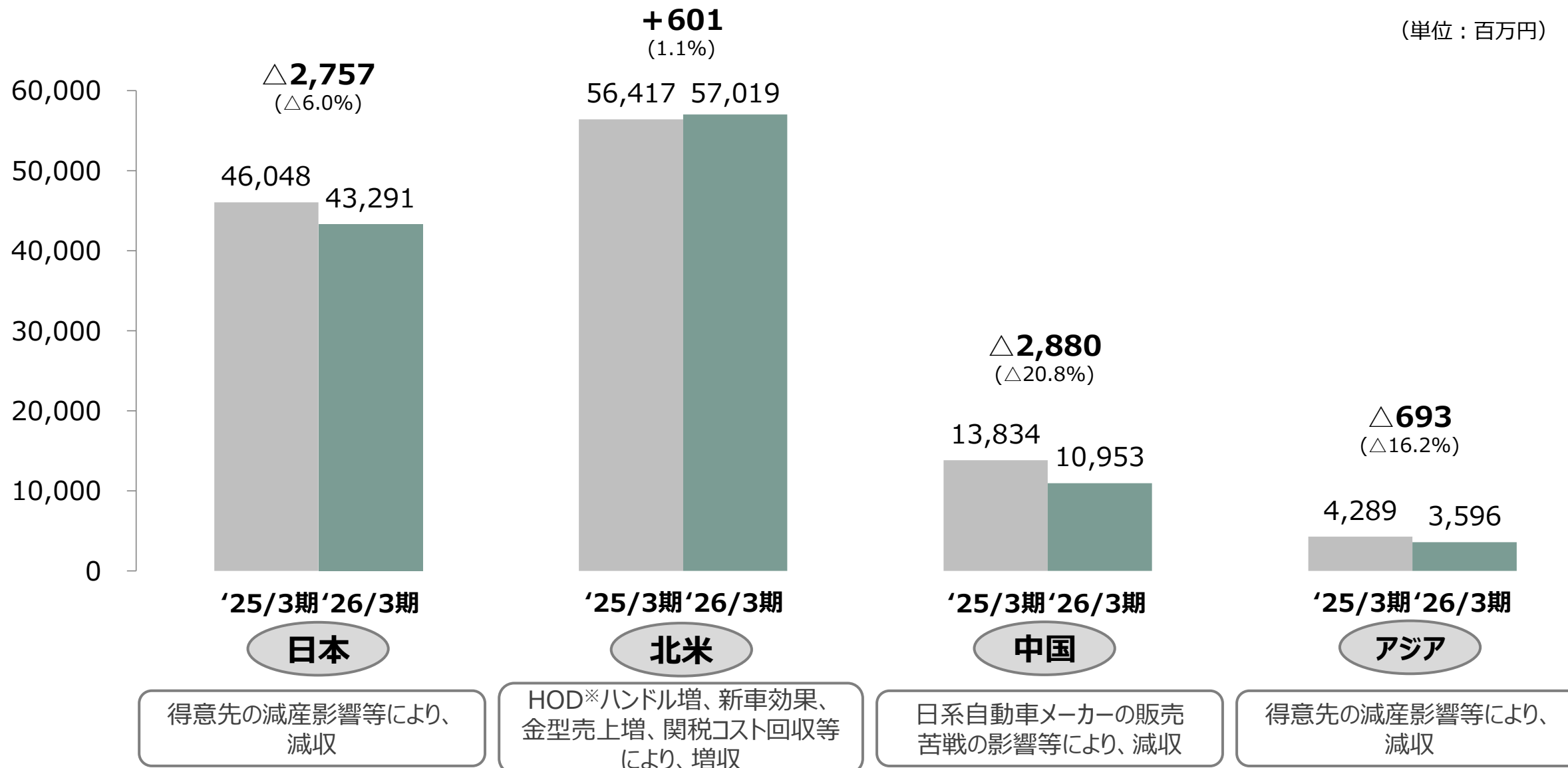
注1) 24年 1~12月平均レート

注2) 25年 1~12月平均レート

(2) セグメント情報 <地域別売上>

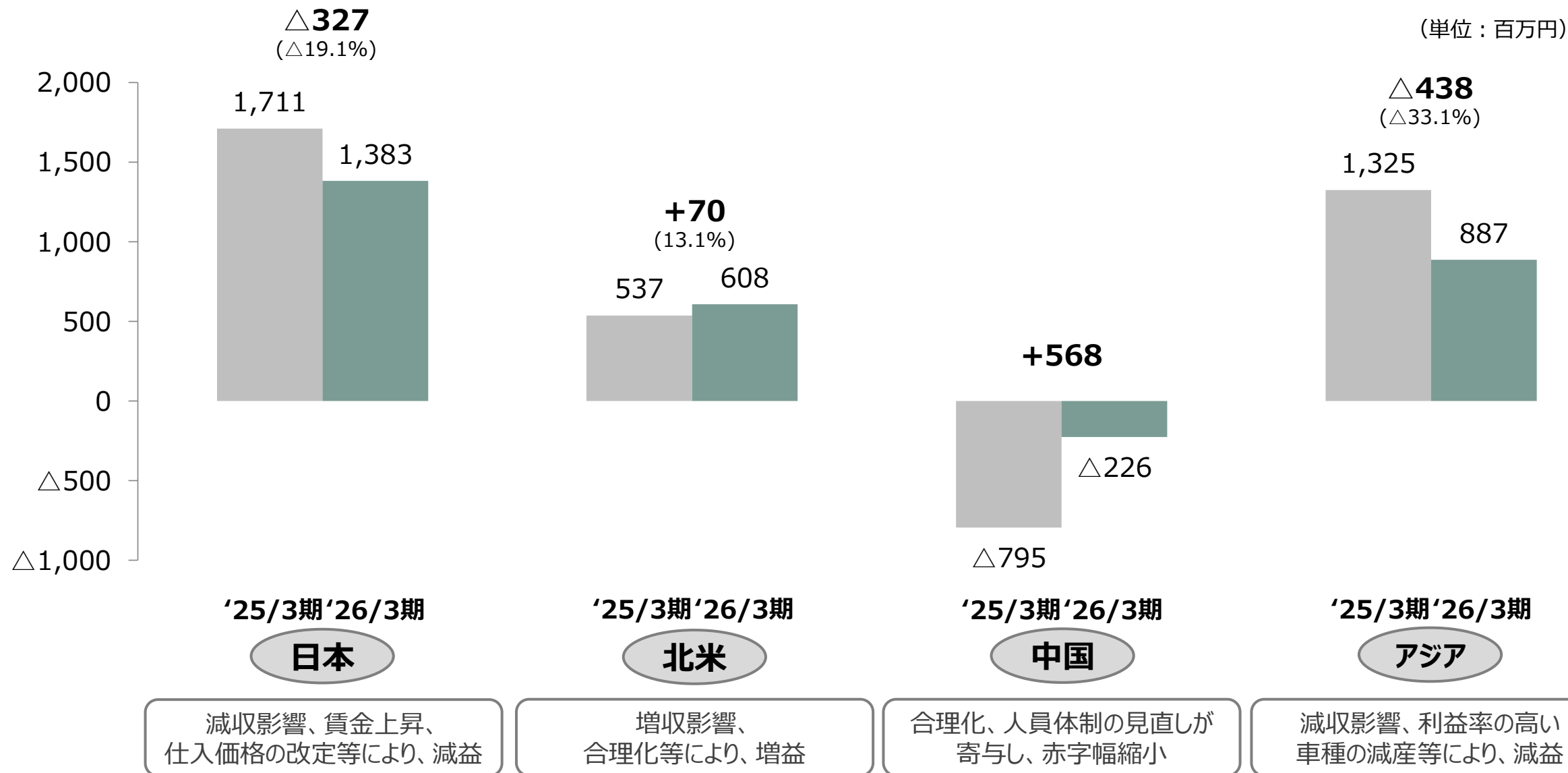


(単位：百万円)



※HOD (ハンズ・オン・ディテクション) とは運転者がハンドルを把持しているか否かを検知する機能。それにより自動運転の切替が可能となる。

(2) セグメント情報 <地域別営業利益>

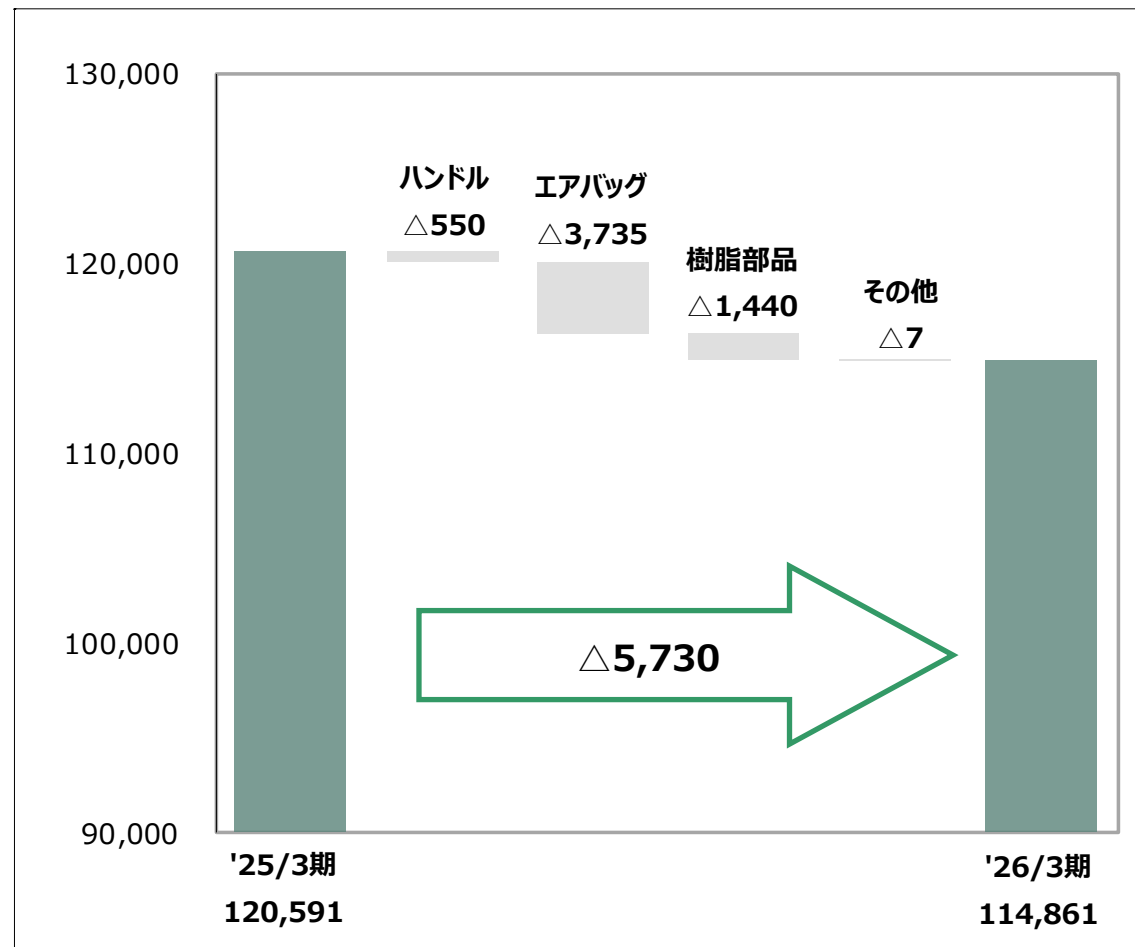


(3) 製品別売上



(単位：百万円)

	'25/3期	'26/3期	対前年比	
			増減	伸率
			ハンドル	31,644 (26.2%)
エアバッグ	30,861 (25.6%)	27,126 (23.6%)	△3,735	△12.1%
樹脂部品	58,057 (48.1%)	56,617 (49.3%)	△1,440	△2.5%
その他	29 (0.0%)	22 (0.0%)	△7	△24.1%
連結売上高	120,591	114,861	△5,730	△4.8%



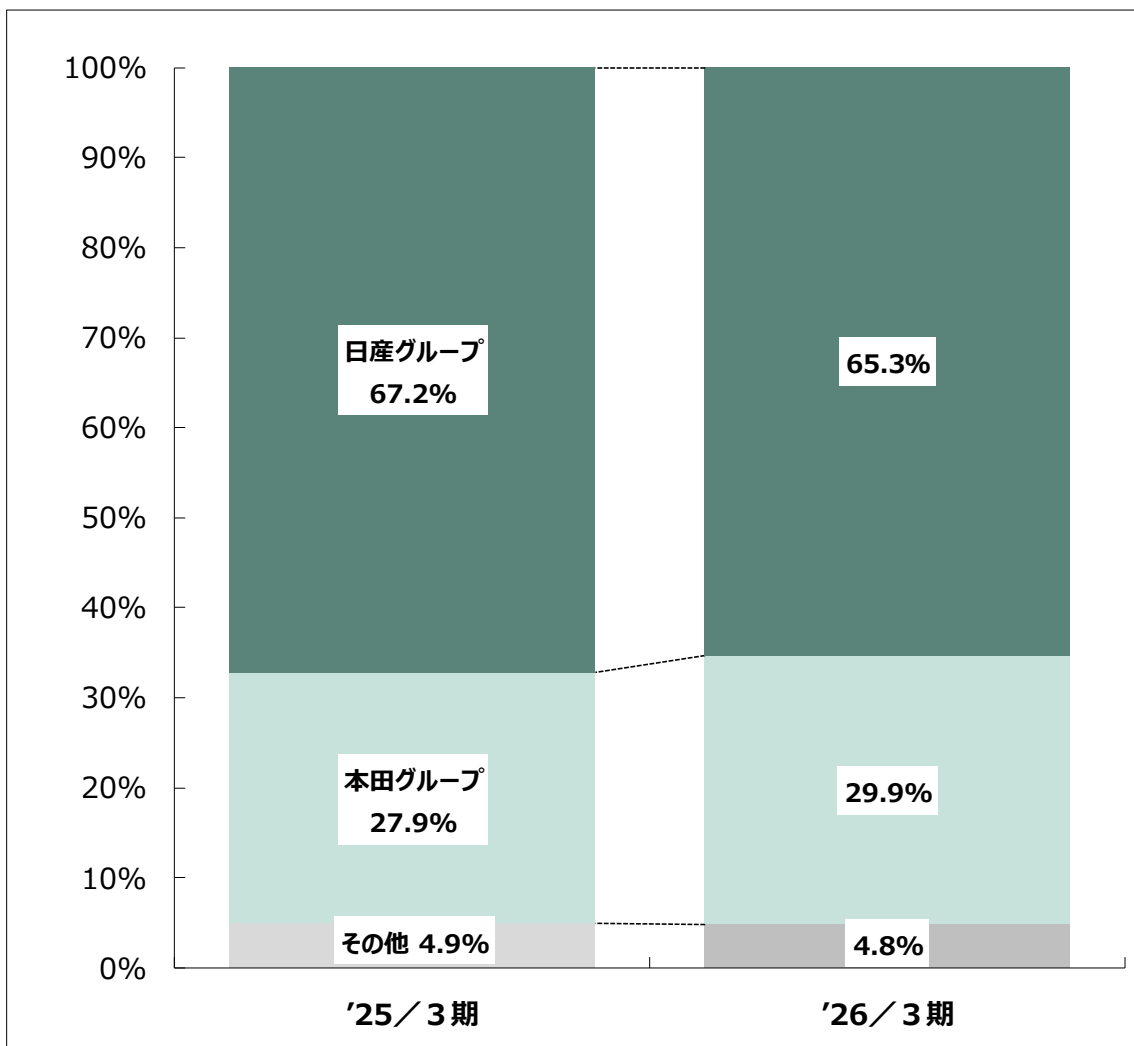
ハンドル 減産影響等を受けたものの、HODハンドルの増加や新車効果等により、前期並み
 エアバッグ 減産影響等により、減収
 樹脂部品 減産や為替による減収影響を受けたものの、新車効果、金型売上の増加等により、前期並み

(4) 得意先別売上



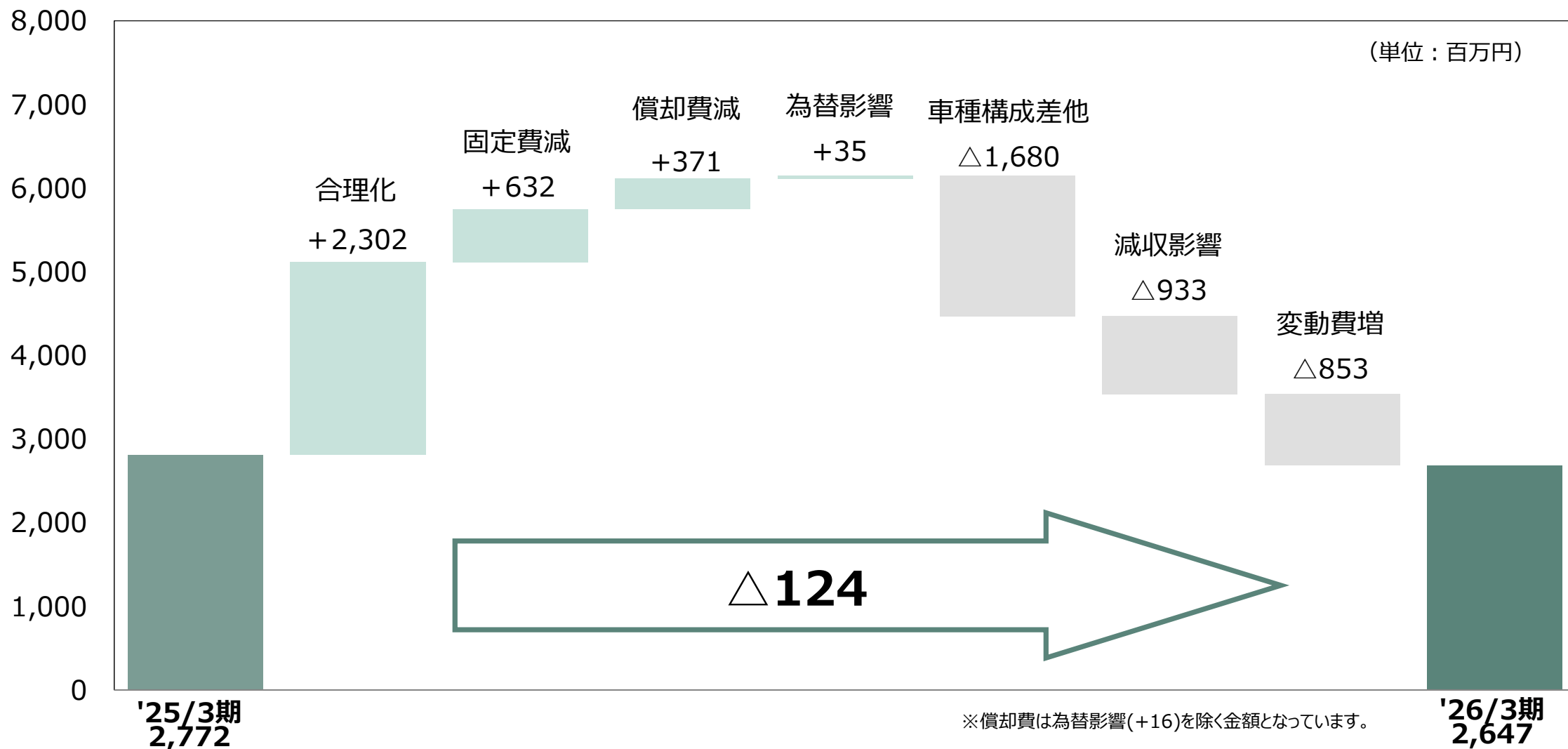
(単位：百万円)

	'25/3期	'26/3期	対前年比	
			増減	伸率
日産グループ	81,038 (67.2 %)	75,069 (65.3 %)	△5,969	△7.4%
本田グループ	33,614 (27.9 %)	34,330 (29.9 %)	716	2.1 %
その他	5,939 (4.9 %)	5,460 (4.8 %)	△479	△8.1%
連結売上高	120,591	114,861	△5,730	△4.8%



日産 HODハンドル増加、新車効果はあるものの、減産影響等により、減収
 本田 減産影響を受けたものの、新車効果等により、前期並み
 その他 減産影響等により、減収

(5) 営業利益増減説明



車種構成差、減収影響、変動費増加等のマイナス要因を、合理化、固定費減少等で打ち返すことができず減益

(6) B/S主要増減

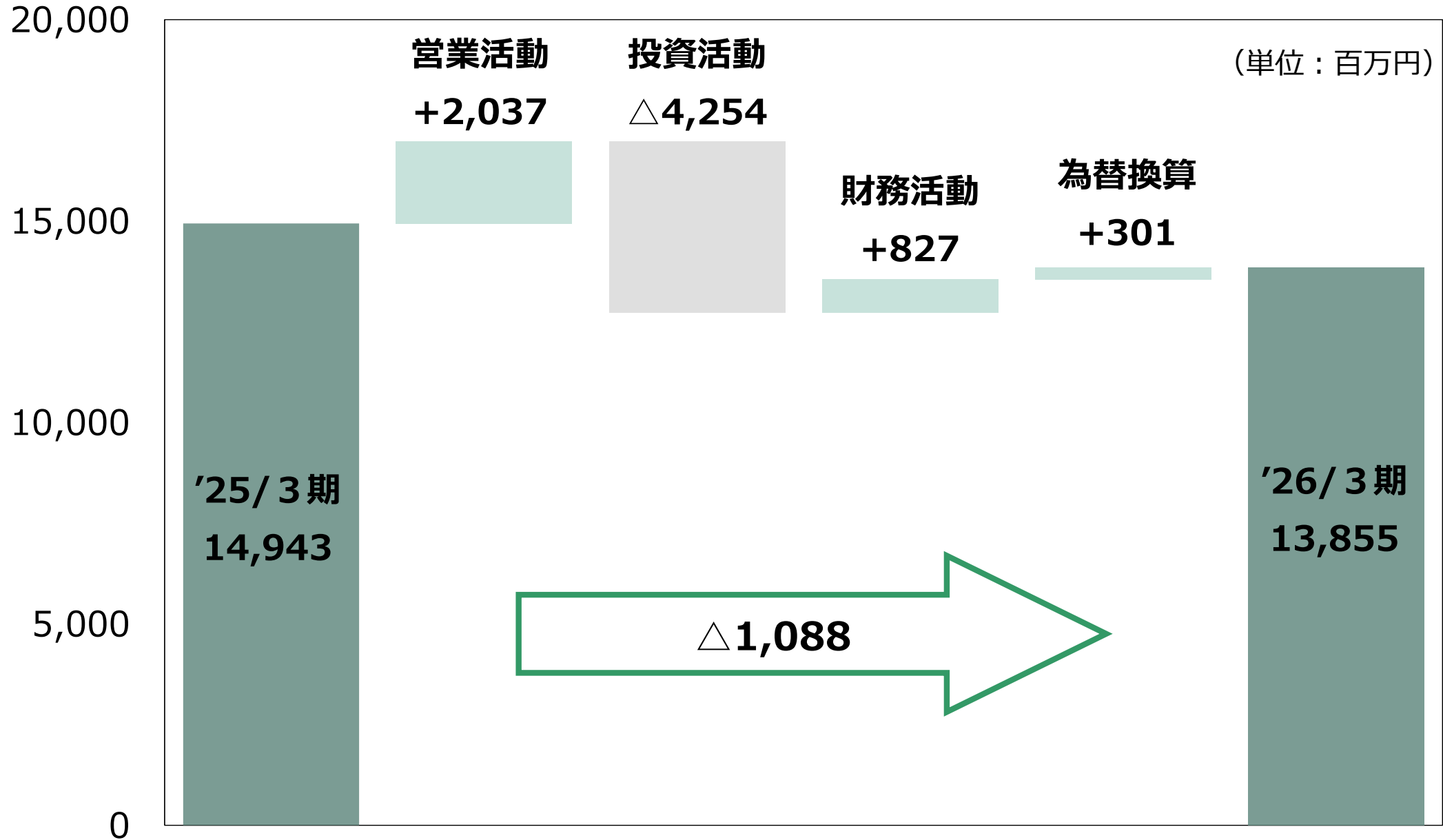


(単位：百万円)

	'25/3末	'26/3末	前年度末比	主要増減要因
流動資産	48,015	50,254	2,238	・売掛金 +3,169 ・現金及び預金 △1,088
固定資産	35,692	35,196	△ 496	・有形固定資産 △1,312 ・投資有価証券 +449
資産合計	83,707	85,450	1,742	

	'25/3末	'26/3末	前年度末比	主要増減要因
流動負債	39,237	37,945	△ 1,291	・製品保証引当金 △1,856 ・短期借入金 +577
固定負債	9,932	10,001	68	・長期借入金 +170 ・退職給付に係る負債 △72
純資産	34,538	37,503	2,965	・利益剰余金 +1,672 ・為替換算調整勘定 +793 ・その他有価証券評価差額金 +389
自己資本比率	41.3%	43.9%	2.6 %	
負債純資産合計	83,707	85,450	1,742	

(7) C/F増減



1. 2026年3月期 決算報告

2. 2027年3月期 通期見通し

3. トピックス



日本プラスト株式会社

(1) 概要



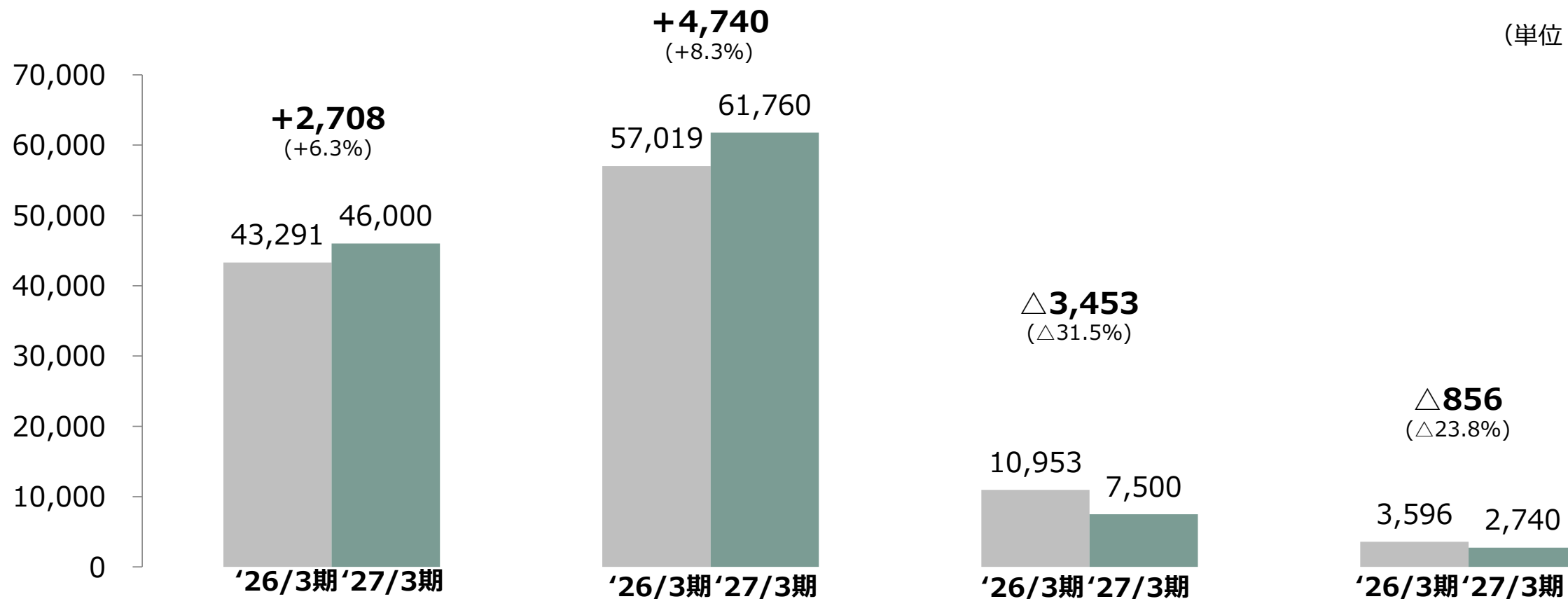
(単位：百万円)

	2026年3月期		2027年3月期		増減	伸率
売上高	114,861	100.0%	118,000	100.0%	3,138	2.7%
営業利益	2,647	2.3%	2,400	2.0%	△247	△9.4%
経常利益	2,499	2.2%	2,000	1.7%	△499	△20.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,012	1.8%	1,600	1.4%	△412	△20.5%
1株当たり当期純利益	106.22円		84.75円		—	—
1株当たり配当金	30.00円		25.00円		—	—
設備投資額	3,746		4,800		1,053	28.1%
減価償却費	4,476		4,816		339	7.6%
US \$ 換算レ - ト	149.78円		155.00円		5.22	—

(2) セグメント情報 <地域別売上>



(単位：百万円)



日本

既存車種の増産、
新車効果等により、増収

北米

既存車種の増産、
HODハンドル増、新車効果、
金型売上増等により、増収

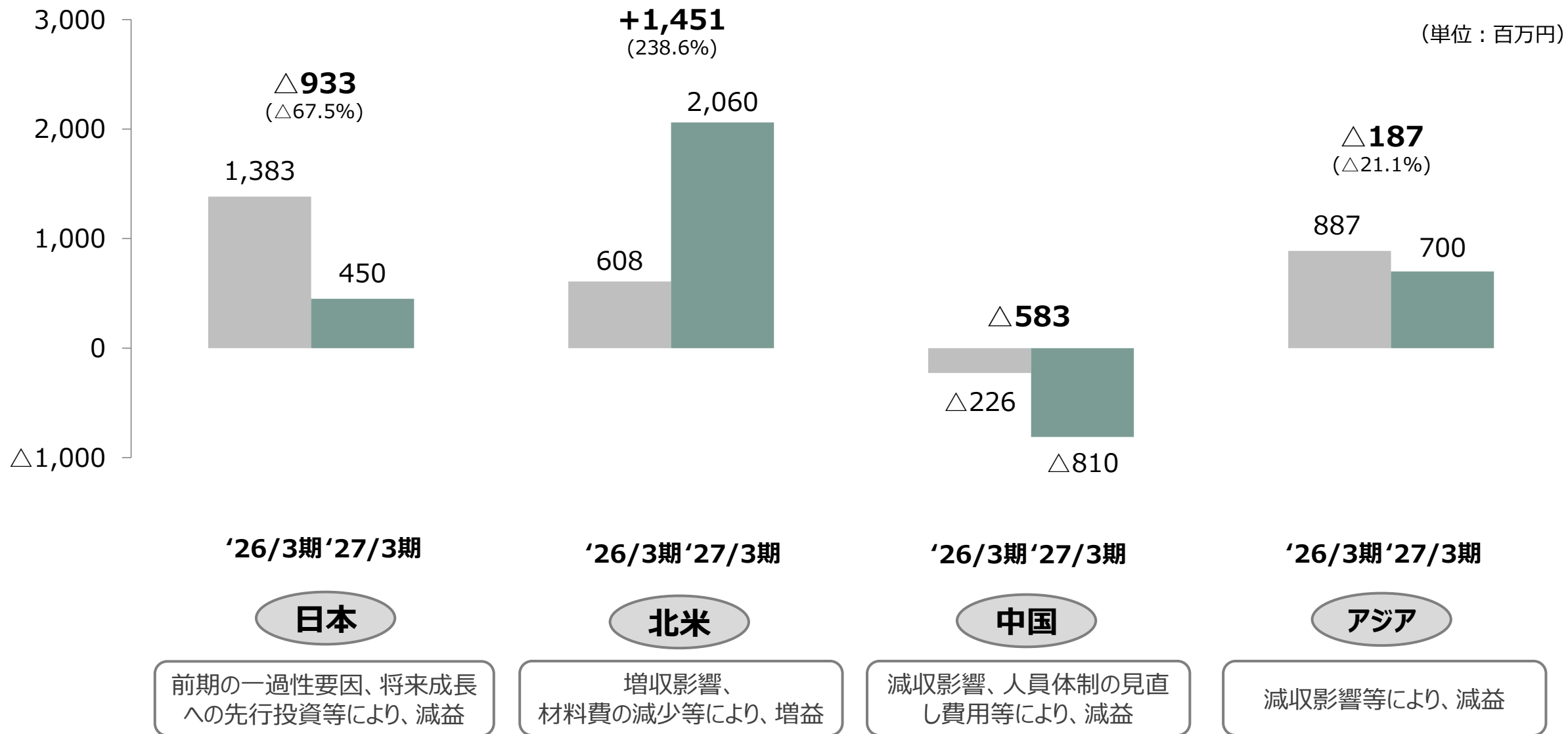
中国

一部受注部品の生産終了
影響等により、減収

アジア

得意先の減産影響等により、
減収

(2) セグメント情報 <地域別営業利益>

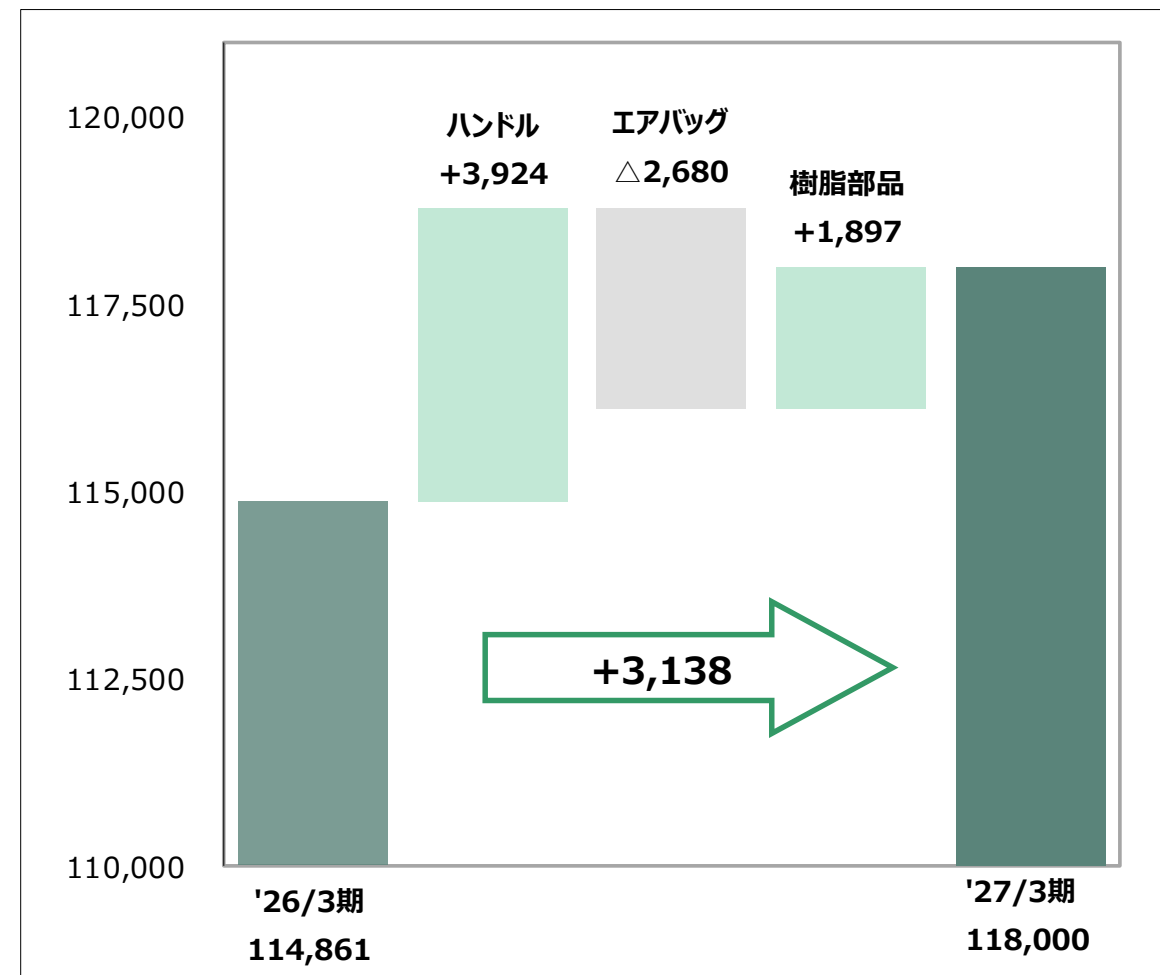


(3) 製品別売上



(単位：百万円)

	'26/3期	'27/3期	対前年比	
			増減	伸率
ハンドル	31,094 (27.1%)	35,018 (29.7%)	3,924	12.6%
エアバッグ	27,126 (23.6%)	24,446 (20.7%)	△2,680	△9.9%
樹脂部品	56,639 (49.3%)	58,536 (49.6%)	1,897	3.3%
連結売上高	114,861	118,000	3,138	2.7%



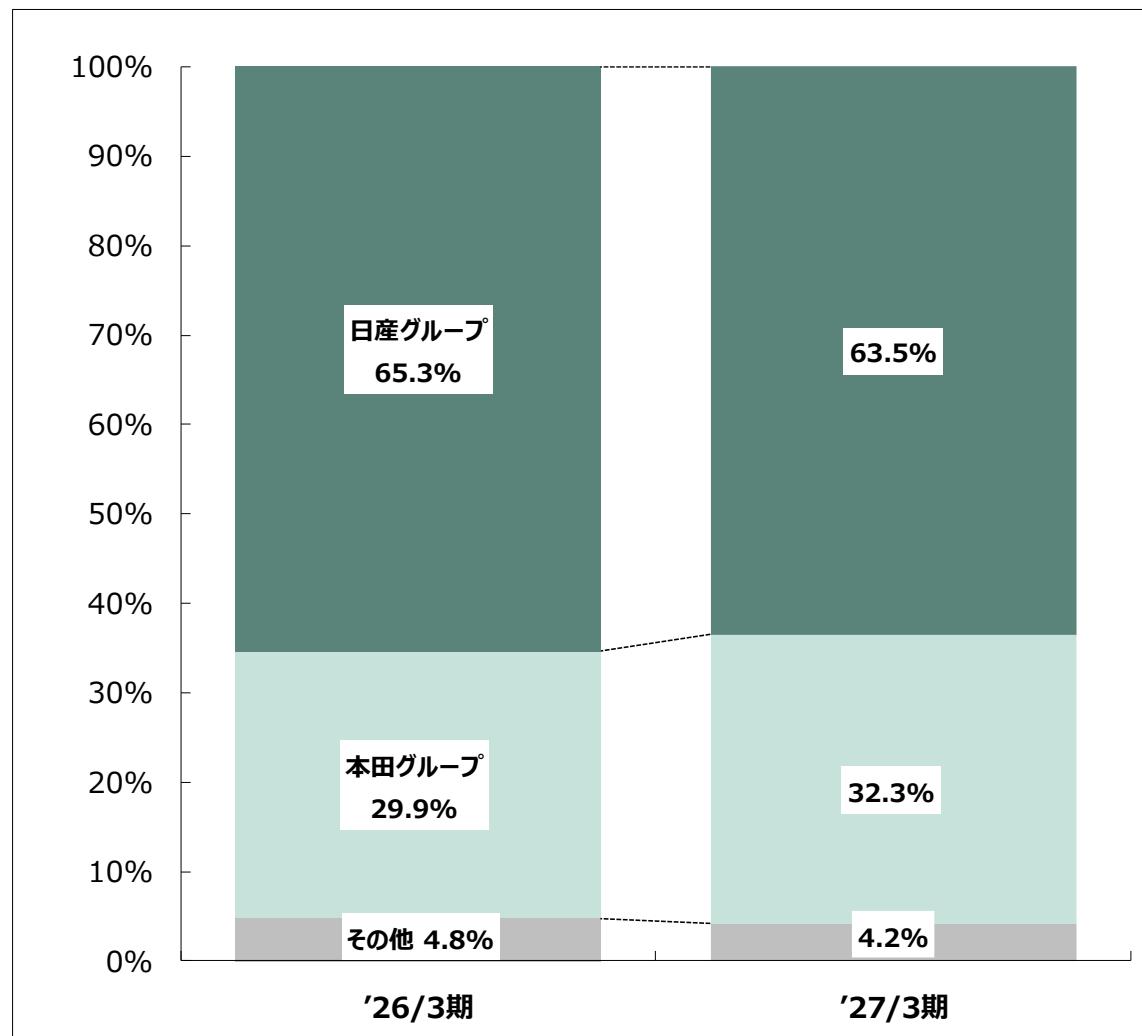
ハンドル 既存車種の増産やHODハンドルの増加及び新車効果に加え、為替影響等により、増収
 エアバッグ 一部受注部品の生産終了影響等を受け、減収
 樹脂部品 本田の増産及び金型売上の増加に加え、為替影響等により、増収

(4) 得意先別売上



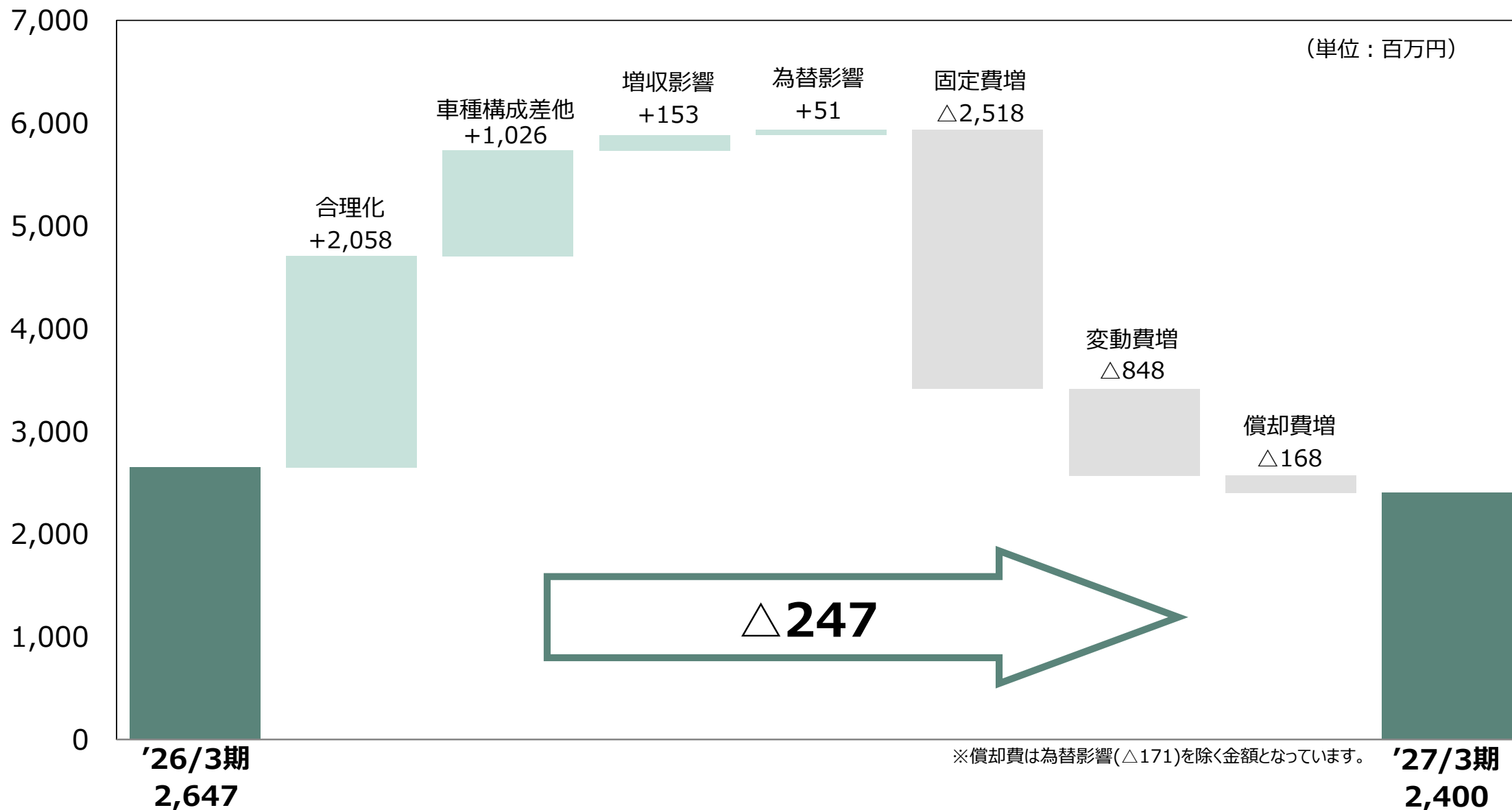
(単位：百万円)

	'26/3期	'27/3期	対前年比	
			増減	伸率
日産グループ	75,069 (65.3 %)	74,940 (63.5 %)	△ 129	△0.2 %
本田グループ	34,330 (29.9 %)	38,127 (32.3 %)	3,797	11.1 %
その他	5,460 (4.8 %)	4,932 (4.2 %)	△528	△9.7 %
連結売上高	114,861	118,000	3,138	2.7 %

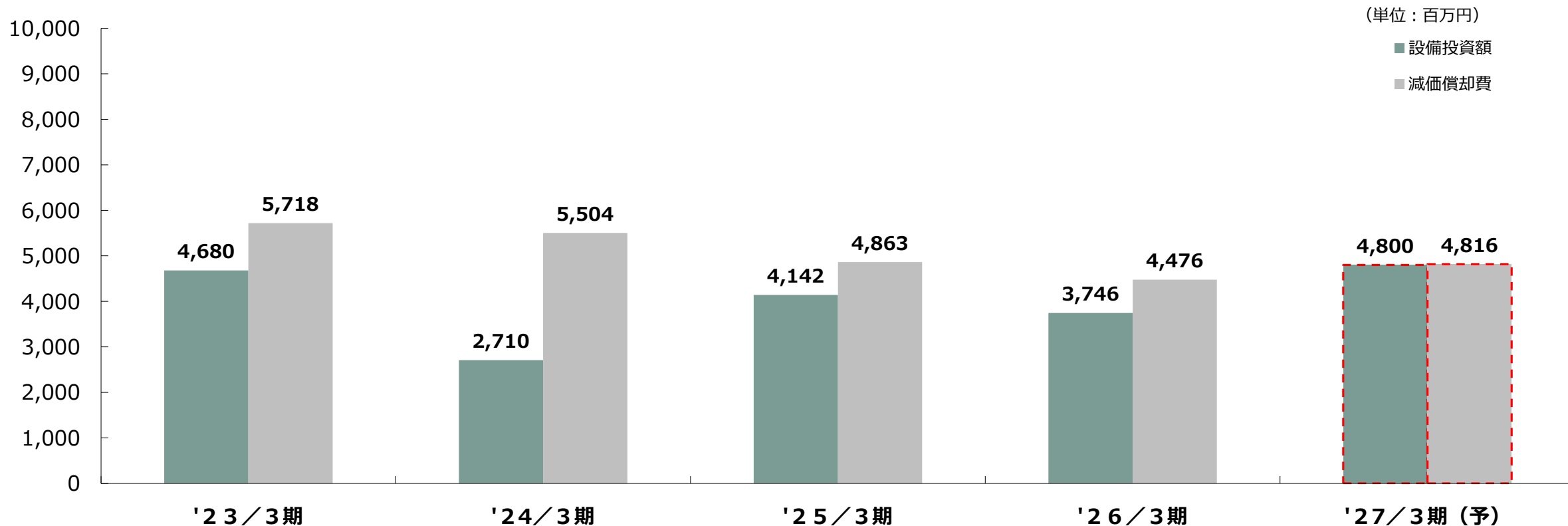


日産 エアバッグの減産影響を受けるものの、ハンドルの増産に加え、為替影響等により、前期並み
 本田 増産及び金型売上の増加に加え、為替影響等により、増収
 その他 減産影響等により、減収

(5) 営業利益増減説明



(6) 設備投資と減価償却費



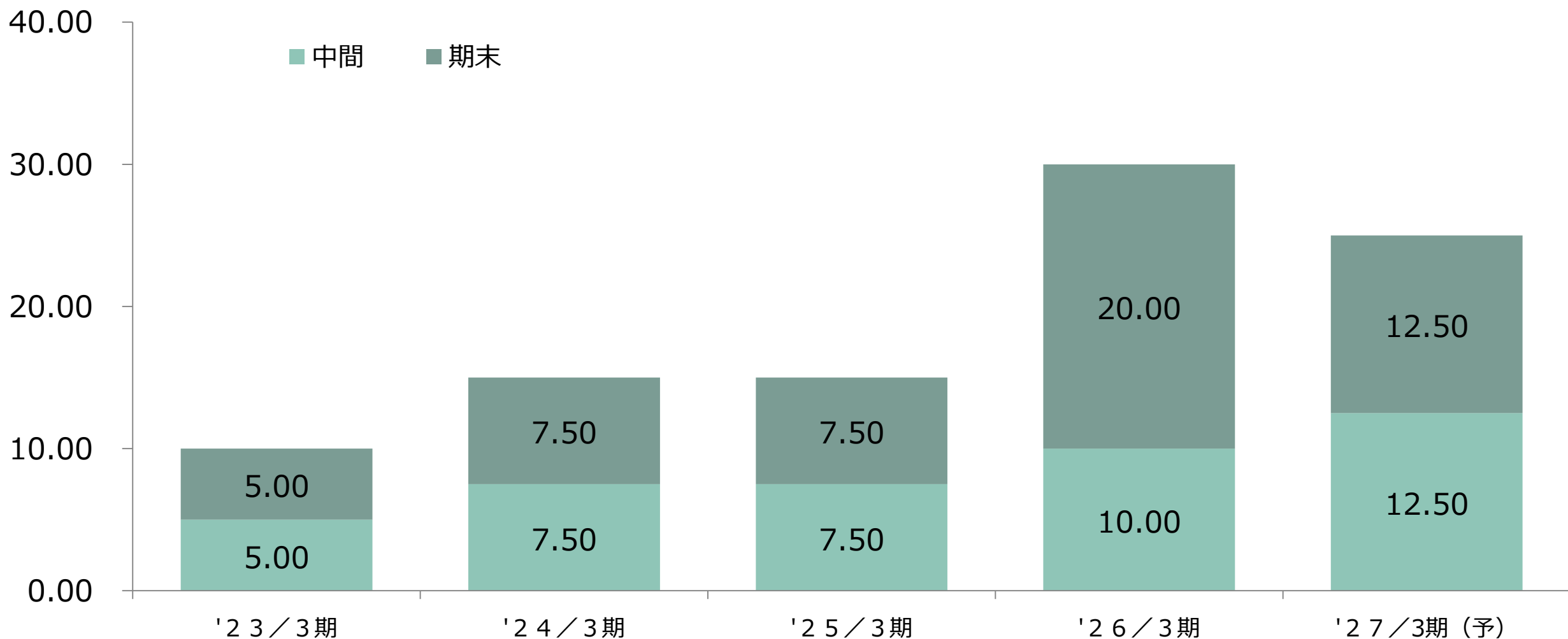
	'23/3期	'24/3期	'25/3期	'26/3期	'27/3期 (予)
投資の主な内訳	<ul style="list-style-type: none"> ・金型 ・新車生産設備 	<ul style="list-style-type: none"> ・金型 ・新車生産設備 	<ul style="list-style-type: none"> ・金型 ・新車生産設備 ・成形設備 	<ul style="list-style-type: none"> ・金型 ・新車生産設備 ・成形設備 ・DX関連設備 	<ul style="list-style-type: none"> ・金型 ・新車生産設備 ・成形設備 ・DX関連設備

(7) 配当金



<配当金推移>

(単位：円)



質問	回答
①一過性の要因の有無を教えてください	<p>一過性の要因といたしましては、日本において貸倒引当金の戻入が発生しております。これは、過年度に自転車用エアバッグ販売先の倒産に伴い計上していた引当金について、債権回収の進展があったことによるものです。加えて、北米において新車開発中止に伴う補償金の受領がありました。また、特別損益におきましては、製品保証引当金戻入額や投資有価証券売却益を特別利益に計上した一方、減損損失を特別損失として計上いたしました。製品保証引当金戻入額は、製品保証の費用負担について相手先と合意に至り、最終的な費用発生額が当初想定を下回ったことによる利益計上です。減損損失は一部の国内拠点において、市場環境の変化により、収益性が低下し、短期間での回復が困難であると判断したことによる損失計上です。</p>
②関税コストの得意先との協議の進捗	<p>2026年3月期におきましては、関税コストの上昇分に対する得意先との協議を継続し、一部回収が進展いたしました。現時点で全額回収には至っておりませんが、未回収分につきましても引き続き協議を重ねており、2027年3月期中の妥結を見込んでおります。</p>
③2026年3月期の業績予想値と実績値の差異について	<p>売上高は概ね業績予想値と同水準となりました。一方、各利益項目につきましては、為替や一過性の要因の影響もあり、業績予想値を上回る結果となりました。詳細につきましては、5月8日に開示しました「特別損失の計上及び通期連結業績予想値と実績値の差異に関するお知らせ」をご確認ください。</p>

質問	回答
④次期、中期経営計画の発表時期と具体的な指標を教えてください	<p>当社は2027年3月期を初年度とする「第7次中期経営計画」の策定を進めてまいりましたが、現段階において合理的かつ信頼性の高い中長期の業績見通しを算定することが困難であると判断し、公表を見送ることといたしました。本日（5月22日）、公表した決算説明動画Ⅱ部では、第6次中期経営計画の振り返りと2027年3月期 単年度の事業計画について説明しております。</p>
⑤主要得意先のEV戦略の見直しについて	<p>主要得意先のEV戦略見直しに伴い、新車開発計画の変更・中止等による売上高への影響が顕在化する可能性があります。現時点においてその影響額を合理的に見積ることは困難ではありますが、当社としては、得意先との緊密な連携を通じ、誠実な協議・交渉を継続することで、事業への影響を最小限にとどめるよう努めてまいります。</p>
⑥中東情勢の影響	<p>中東情勢等の地政学的リスクの高まりは、物流網の混乱に加え、原油価格の高騰を通じたエネルギー及び原材料コストの急激な上昇を招く恐れがあります。これらにより当社グループの生産コストが増加するだけでなく、主要得意先における生産調整が引き起こされる可能性もあります。現時点においてその影響額を合理的に見積ることは困難ではありますが、状況の変化に対して機動的に対応し、業績への影響を最小限にとどめるよう努めてまいります。</p>

1. 2026年3月期 決算報告

2. 2027年3月期 通期見通し

3. トピックス



日本プラスト株式会社

日産 N6 2025年 中国発売

安全部品、2部品新規採用



【当社が受注している部品】

新規採用

安全部品（2部品）

- ・ハンドル
- ・運転席用エアバッグ

※権利上の都合により、内装写真の掲載は控えさせていただいております。

画像出典元：日産自動車ニュースルーム

トピックス_新規受注活動

日産 Sentra 2026年 米国/メキシコ発売

5部品採用 内、2部品新規採用

【エクステリア】



【インテリア】



【当社が受注している部品】

安全部品（2部品）

- ・ハンドル
- ・運転席用エアバッグ

エクステリア部品（3部品）

- ・カバーカウルトップ

新規採用

- ・バッフル フロントフェンダー（RH/LH）

画像出典元：日産自動車ニュースルーム



「人とくるまのテクノロジー展 2026」に出展

次世代の自動車に向けた内装部品や
サステナブルへの取り組みを紹介

開催期間：5月27日（水）～29日（金）

会場：パシフィコ横浜(横浜市)



小間番号401

展示物

次世代自動車に向けた提案

- ・多機能コンソール
- ・NCON II（エヌコンツ）

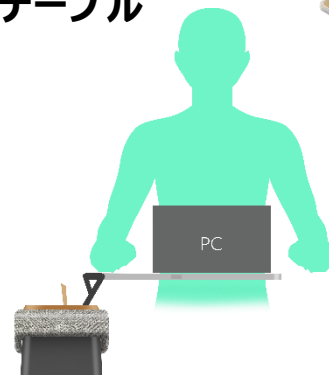
サステナブル社会への取り組み

- ・カーボンニュートラル素材
- ・SDG s 関連製品（plus to u）

多機能コンソール

停車中にも活躍するコンソール

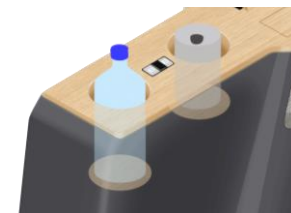
- ◆正面配置で使いやすい
収納式テーブル



- ◆軽い力で操作可能なポップアップ式



- ◆様々な容器に対応する
高さ調節可能なカップホルダー



NCON II

自動運転対応の次世代ハンドル

- ◆布巻により触感を向上

- ◆生体検知時間を短縮



- ◆格納により広々空間を提供



格納時





革の触感を数値化、高品質を実現

1. 開発の背景：曖昧さからの脱却

従来の革の触感評価は、人の感覚に頼る官能評価が主流であり、客観的な数値化が困難でした。この曖昧さが、安定した製品開発の障壁となっていました。

2. 解決策：3要素相関分析による数値化

当社は、以下の三つの要素の相互関係を科学的に分析し、感覚的な触感を客観的な数値データとして捉える革新的な技術を確立しました。

独自の評価技術



物理的な測定値



人の感覚官能評価



触感に対する好み

3. 特徴：高級本革に匹敵するタッチ感と業界トップクラスの耐久性

独自の評価技術を用いた表皮の「塗膜（コーティング）」と「シボ（凹凸模様）」のコントロールにより、当社製品は高級車用スムーズ本革と同等の満足度の高い触感を実現しています。また、触感の向上だけでなく、塗膜の材料改良により、高い耐久性も両立。長期にわたる製品寿命を提供します。



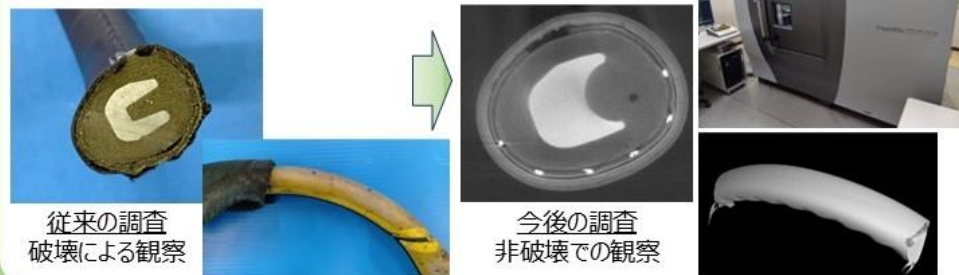
今後の事業への貢献

感覚的な評価を数値化し、品質を保証するこの独自技術は、当社製品の競争力を高め、ユーザーのみならずさらなる満足を提供することで、今後の事業拡大の基盤となるものです。

X線CTシステム導入により非破壊検査を実現

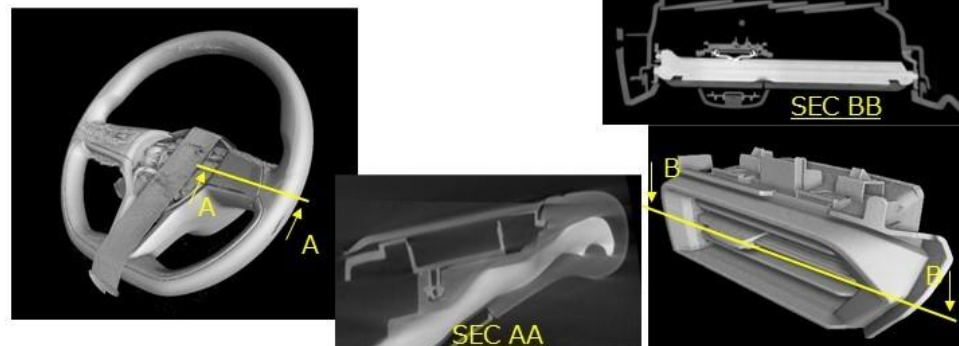
島津製作所製 X線CTシステム「SMX-225CT FPD Plus」を導入

従来行っていた製品を破壊して内部状況を確認する調査から、製品を破壊せずに内部状況を確認することが可能となりました。



鉄30mmを透過可能な高出力、X線漏えい1 μ Sv/h以下の高い安全性

樹脂、ハンドルの芯金で使われるマグネシウムはもちろん、X線が透過しづらい鉄も約30mmまで透過可能で、多彩な製品をCT画像として撮影が可能です。



X線漏えい量は、レントゲン撮影時(60 μ Sv)の1/60である1 μ Sv/h以下に抑えられているため、高い安全性が確保されており、作業者が安心して業務に携われる環境を実現しています。

今後の事業への貢献

破壊(切断等)による状態変化の影響を受けずに、完成品の内部状況を確認する事が可能となります。また、製品を傷つけないため、お客様への納入品に対しても非破壊での内部検査が可能となり、さらなる安心と品質をお届けします。



日本プラスト株式会社

日産自動車より

SSA推進感謝状を受領

SSA（外観品質基準適正化）活動を推進し、品質判定基準を一本化することで、一貫した基準に基づいたものづくりが可能となるよう貢献したことが評価されました。



贈呈された盾

日本プラスト株式会社

本田技研工業より

2026年優良感謝賞 (原価部門) を受賞

創意工夫をこらしたものづくりを行い、原価低減活動に対して常に自助努力を欠かさなかったことが評価され、9回目の受賞となりました。



贈呈された盾

武漢富拉司特汽車零部件有限公司

東風日産より

2025年度最優秀 Supplier-Partner を受賞

Quality・Cost・Delivery・Development・Service
の全ての項目においてトップレベルであると評価され、
2年連続・3度目の受賞となりました。



贈呈された盾

中山富拉司特工業有限公司

日産自動車より

納入遵守に対する感謝状 を受領

アフターサービスパーツの納入遵守率が高く、一定基準を
満たしたことが評価されました。



贈呈された感謝状



日本プラスト株式会社

5年連続 「健康経営優良法人」に認定

当社は、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に
取り組む法人として、「健康経営優良法人2026

(大規模法人部門)」に5年連続で認定されました。

※経済産業省が地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める
健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している法人を
顕彰する制度



贈呈された認定証

Neaton Auto Products Manufacturing Inc.

プレブル群商工会議所より

2025年優秀大規模企業賞 を受賞

長きにわたり安定した雇用を生み出してきたことや従業員満
足度の向上に注力してきたことに加え、ポリネーターガーデン
の開設や福祉施設への支援など、多方面にわたる地域貢
献活動を行ったことが高く評価され、受賞をしました。



贈呈された盾

日本プラスト株式会社

富士宮市より

富士山SDGs アワード2025 を受賞

「はぐくみの森」森づくり活動が
SDGsの推進に寄与しているとして、
受賞をしました。



贈呈された盾

Nihon Plast Mexicana, S.A. de C.V

第18回 ラテンアメリカ社会的責任企業 会議 (ESR) メキシコシティ開催

ESR企業 (2年連続) に認定

環境問題の解決やインクルーシブな取り組みの
定着化など、SDGsに関する活動を行っており、
それらが高く評価され、受賞をしました。



贈呈された盾

Nihon Plast Mexicana, S.A. de C.V

ケレタロ州・ケレタロ自動車業界クラスターより

脱炭素化推進 企業に認定

メキシコの民芸品を制作する職人と
共同で活動している「本革及び合皮
の再利用プロジェクト」がCO2削減や、
地域社会の雇用促進に寄与してい
ると評価されました。



贈呈された認定証

ご視聴ありがとうございました。

◆決算説明に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

お問い合わせフォーム：<https://forms.gle/ocFDwTa3ZbcZQcps6>
(受付期限：2026年6月30日)



◆今後の運営の参考にさせていただきますので、よろしければアンケートにご協力ください。

※アンケートにご回答いただいた方、**先着50名に粗品をプレゼント**いたします。

アンケート入力画面：<https://forms.gle/GJPxqzWCFjcvFut66>
(回答期限：2026年6月30日)



本資料に記載の将来予測及び業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。